

人と人、人と自然のつながりを学び、 主体的に環境に関わる東っ子

身近な自然環境である葉山川での環境学習を基点に、地域の自然や人を愛し、みんなが幸せに生活するために、環境に配慮した暮らしや行動の仕方について考え、主体的に環境に関わろうとする子どもをめざす。

1 学校の概要

本校は、京阪神のベッドタウンとして人口が急増している草津市に位置する。

平成17年度よりエコ・スクールの実践校の指定を受け、校区に流れる葉山川を中心とした環境学習を重ねてきた。平成19年には淡海こどもエコクラブ大賞を受賞し、近年はFBC（フラワーブラボーコンクール）にも参加し、自然や生き物とのふれあいを体験する学習を積み重ねてきている。また、平成24年度には「しが環境教育リーディング事業」の指定を受け、環境学習に重点を置き、地域の方々と共に取り組んだ。また、平成25年には環境省より環境保全功労者表彰を受賞した。

2 「エコ・スクール笠縫東」の取り組み

(1) 環境への関心と地域への愛着

社会では、地球温暖化、水質汚濁など、様々な環境問題がメディアに取り上げられている。

それらの問題は何か一つを変えれば解決するような問題ではなく、様々な立場の人と協力しながら少しずつ解決していかなければならない問題である。一人ひとりが自分勝手な考えを改め、相手の立場に立って行動したり、将来を見据えて行動したりする事が大切である。

本校が進める環境学習のねらいは、人と人、人と自然のつながりを学び、学ぶ楽しさを知る中で、

環境への関心や地域への愛着を深め、身近な環境に対して主体的に関わろうとする力を育むことにある。

(2) エコ・スクールは、地域とのつながりによって支えられている

本校の「環境学習」は「自然環境」という意味だけでなく、「地域・人」も含め、「自然・地域・人」を広い意味での「環境」ととらえている。

一年間を通して、地域の方々にお世話になりながら地域を流れる川である「葉山川」を基点に、全学年が、生活科・総合的な学習の時間を中心に環境学習（葉山川学習）に取り組んでいる。大人も子どもも楽しく集いながら環境学習を進めており、この学びの過程において、子どもたちと地域の人々との「つながり」を特に重要視している。

また、地域には「地域協働合校推進協議会」があり、子どもの学習をサポートする大きな力となっている。特に、エコスクールについては「エコスクール支援委員会」を年2回開き、学校と地域とが連携して学習を進めるだけでなく、地域の取り組み内容や、昔の地域の様子などたくさんのことを教えていただいている。このように地域との二人三脚により、本校の環境学習は進められている。

(3) 6年間を通した取組

低学年では川原にある草花や生き物を中心に、地域の方の協力を得ながら、生活科の遊びの中で身の回りの生命に触れている。

3年生では、理科の学習と併せて、昆虫や水生生物などの小動物の観察を中心に取り組んでいる。今年度は葉山川の観察スポットを3つ設け、それらによって違いがあるのか調べながら、食べものやすみかについて考えた。本校ではタブレットが配備されており、実際の観察にもタブレットを持って出かけ、目や耳で観察する他にも、写真として記録し学校に戻ってから比較したり、学習を深め合ったりすることができた。



3年生 タブレットを用いた観察

4年生では、「ふるさと葉山川探検隊」と称し、川の探検に取り組んでいる。探検では、川の中に入り、水生生物や魚をつかまえたり、川底の感触や水の冷たさを体感したりした。また、2年前に葉山川近くの休耕田で発見された『ハッタミミズ』を地域の方や琵琶湖博物館の協力を得て探したところ、たくさん見つけることができ、今も大切に飼育している。



4年 葉山川探検

他にも、地域の方々と旧葉山川の跡地や遺跡をまわり、昔の人々の葉山川への思いや、葉山川の氾濫による人々の苦労などを知ることができた。一方で、これらの活動を通して、川のまわりや中に多く見られるごみに気づき、ごみを減らすことを呼びかけるポスターを作成した。



4年 旧葉山川の跡地めぐり

高学年になり、5年生では葉山川と琵琶湖はつながっていることを確認した上で、川のまわりのごみやプランクトンの様子を観察した。川に流されたごみは、いずれ琵琶湖に流れること、細かく分解されたプラスチックごみは、自然には戻らずマイクロプラスチックとなって、いずれ私たち人間にも戻ってくるということも教えていただいた。そして地域の方々が、毎月葉山川周辺の清掃活動をされていることや、環境を大切にされた農法で米などの作物を作っておられることも知り、実際に田植えをするとともに、自分たちにできることは何かと考えた。



5年 プランクトンの観察



5年 環境こだわり米の田植え

6年生では、葉山川学習の総仕上げとして、「身近な自然に対して自分たちができることはないか」をテーマに考え、3つのグループに分かれて取り組んだ。

「ごみのない川にするために」チームでは、実際の様子を見に行くと同時に、草津市環境課の方から草津市のごみの現状について話を伺った。

「生き物が住みやすい葉山川にするために」チームでは、実際に生き物調査を行い、琵琶湖に住む生き物とのつながりを考えた。

「もっとみんなが楽しめる葉山川にするために」チームでは、葉山川周辺を散歩されている方々に、葉山川の良いところや、昔の様子をインタビューしたり、地域で環境のために活動されている『ホタルの会』や『まちづくり協議会』の方々に話を聞いたりした。

これらのことを知る活動を通して、自分たちにできることを考えるだけでなく、3学期以降は実際に行動に移したり、愛川活動を行ったりしている。



6年 葉山川を散歩されている地域の方にインタビュー



6年 地域の歴史について地元の人の話を聞く

(4) 委員会での取組

本校には「エコロジー委員会」があり、委員会活動においても環境活動を進めている。昨年度はメダカの放流、ジュズダマやハンゲショウなどの移植も行い、生き物がより暮らしやすくするために、ビオトープを整備する活動を行った。今年度は地域の方の協力を得ながら、校庭に生えている木々の名前を全て調べ、プレートを作りそれぞれの木に取り付ける作業をすると共に、校庭の樹木マップを作った。また、1月にはごみを捨てないように呼び掛ける看板を地域の方と一緒に設置し、2月には葉山川に入りごみ拾いをし、拾ったごみを分別する活動を行った。子どもたちは、自然に戻らないごみがこれほどあることに改めて驚いていた。これらの取り組みは、全校集会で発表したり、ポスターで知らせたりすることができた。



木の名前プレート付け



葉山川の清掃の様子

3 ふるさと葉山川博物館での学芸員タイム

毎年地域で開催されている学区民のふれあい祭りの日に「ふるさと葉山川博物館」を開館している。多くの来館者があり、一方的に作品を展示するのではなく、子どもたちが「こども学芸員」として展示物の前に立ち、直接展示物の解説を行う

時間を設けている。子どもたちと地域の人々とが交流するだけでなく、子どもたちは、自分の言葉でふるさとの自然について語ることができ、自らのように関わっていきたいかを考える機会にもなっている。



ふるさと葉山川博物館での子ども学芸員たち

4 発表の場を設ける

ふるさと葉山川博物館だけでなく、草津市が主催する「草津市こども環境会議」に、今年度も複数のグループが参加し、葉山川学習で学んだことを一般の方々に発表することができた。こうした取り組みの中で、学習したものがより自分のものとなり、自分の思いや考えを伝える力がついていくものと考えられる。

5 おわりに

葉山川学習で出会った地域の人々とのつながりは、今後も続いていくだろう。地域の自然をテーマにした環境学習は、持続可能な地域づくりであり、町づくりである。子どもたちがそこから学ぶ楽しさを知り、地域の人と楽しく集う関係を作りながら、自分の住む町に愛着や誇りをもつとともに、自ら主体的に環境や周りの人々に働きかけていく力を身に付けていくことこそがその第一歩である。今日まで築いてきた地域の方々とのつながりを今後も大切にし、共に学び合っていきたい。

学校名： 草津市立笠縫東学校

住所： 草津市平井3丁目8-1

電話番号： 077-564-4391

E-mail: info@kasanuihigashi-p.sk.ed.jp